

建設未来京都フォーラム 2015 作品集

◇記念事業Ⅲ

女性たちが語る未来

『建設業で輝く人びと』

建設未来京都フォーラム

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月17日

“社会から「建設業があってよかったなあ」と思ってもらいたい”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

音大を出て中学校で音楽を教えていました。他にもピアノを教えたりして音楽関係に携わっていました。

建設業についてはまったく知らなかったのですが、結婚を機に夫の経営を助けたいとの一心でこの業界へ入り、約26年目。業種は、土木、舗装、メインは造園工事です。

結婚当時、お金の管理や細かい事務作業なら自分にもできるかもしれないと、まずは事務所で経理業務と電話番からスタートしました。昔は固定電話しかなかったので、事務所に必ず電話番を設けて、役所からの連絡などを受け付けられる体制が必要でした。パソコンがない時代だったので、全部手書きで内訳書など書類作成を手伝っていました。

働く喜びは、できあがった現場を見る時ですね。構造物や綺麗に整備された芝など、作ったものが残ることや、まわりの人に喜んでもらえるのが嬉しいです。

また、役所の竣工検査で「合格です！」と言われた時も、清々しくて気持ちがいいものです。工事成績評定点というのがありますが、「出来ばえ」「施工管理」や住民との関係性を示す「対外関係」で満点をもらったときは嬉しかったです。女性監督のもと、仕上がりや管理、コミュニケーション部門で満点と評価していただけたということですから、格別でした。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

過去に苦労したことは女性用トイレですね。今のようにコンビニなどなかった時代でしたので、公民館や役所のトイレを借りました。あとは、体力の問題。現場では多い時には1日2万歩くらい歩きます。あとは女性のお肌の敵、日焼け対策が大変でした(笑)。

30代で現場に入りましたが、とにかくよく怒られました。手伝おうとしても道具の名前(呼び名)が分からず、「カクスコ」持ってこい、と指示されても何のことかわからず、笑われたうえ、怒られました。「カクスコ」ってわかりますか？四角いスコップのことです。「ケンスコ」は先がとがったスコップ(笑)。

過去にはやはり「女性だから」ということでなめられたことも。どうせ女性はわかっていないとの前提で話をされたり、役所の方にも「事務員がきた」と誤解されたり。

そこで、職人さんたちに徹底的に教えてもらいました。わからないことは聞いて、覚えて、聞いて、覚えての繰り返しです。

現場で監督として認めてもらえるまでに、10年かかりました。この監督に任せておけば大丈夫、と信用してもらうまで、さらに10年かかりました。今でもまだまだ勉強中で日々努力です！

➤ **質問③ 建設業の人手不足について**

昔は親方（経営者）がしっかりと一人前になるよう若い人を育てていました。だから、まずは親方がんばってほしいと思います。

今の経営者の方々は、厳しい経営環境で余裕がないのかもしれませんが。即戦力がほしいということも分かりますが、若い人は1日や2日では育たない。親方が現場に姿を見せて、実際にやってみせて教育をしていかないと社員は育たないと思います。

若い方の中には、真剣に向上心を持っている人たちもいる、と感じています。あれをやれ、これをやれと指示を出しっぱなし、一方的に怒ったりするだけでは担い手は育たない。親方の皆さんにじっくり若手育成に取り組んでもらいたいです。

➤ **質問④ 建設業を変えていくには**

3Kと言われていますが、正直、それが本来の姿だと思います。現実、土木は汚れるしきたないものです。綺麗なのは最後の部分、現場が仕上がった時だけです。

ただ、市民の方々に「建設業があつてよかったな」と理解してもらえることが必要ではないでしょうか。たとえば、災害協定を結んでいる建設業は災害時には駆けつけます。訓練という形でひっそりと土のうを作る訓練、杭を打つ地道な訓練もしています。私も訓練に参加したことがあります。たくさんの親方が集まって、ひたすら土のうを詰めて積んでいきます。そうしたひたむきな訓練や準備で、万一災害が起こった時に動けるのだと思います。なにか起こった時や、日々の暮らしに建設業が携わっていることを知ってもらい、建設業があつてよかったなあと思ってもらえるだけで、励みになり嬉しいのです。

若い女性が現場で働くのは、しんどいです。並大抵ではできません。ただし、現場監督はできると思います。資格を取って、現場監督として全体のマネジメントなら、女性も向いていると思います。コミュニケーション力も高いですし、女性の特性を活かして、周囲（住民、役所、現場作業員）との調整もうまくやっていけるとと思います。なにより、現場が仕上がった時の達成感ややりがいも得られます。

また、現場で活躍するなら、体力的、物理的に力が及ばない部分に機械を導入して、女性が扱えるようにすれば、女性が活躍する幅がもっともっと広がると思います。

◆ **ヒアリングを終えて**

受験勉強して1級土木施工管理技士をはじめ建設業経理士2級など数々の資格を取得して、今では監督として現場に出ておられます。現場監督として長く活躍してこられた方からの、女性の活躍に期待する言葉には説得力がありました。

一番気にかけているのが「現場でのコミュニケーション」。朝一番に現場の方たちと話しをするそうです。話しているうちにその人の体調や調子も把握ができるといいます。普段は現場で監督をされていますが、インタビュー当日は、午後から雨降りになり現場がお休みだったので、急遽、お時間を割いていただくことができました。

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月4日

“建設業で女性の特性を活かせる業種はもっとあるはず”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

もとは倉庫業で事務職として働いていました。この会社で働き始めて7年目。私が所属する環境事業部（緑化人工芝）と、あと建設事業部があります。

建設業はアナログな世界だと思っていましたが、入札業務などでパソコンスキルが必要となり、独学でマスターしました。自分がサポートして落札できた時、とてもやりがいを感じます。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

もともと建設業の気質には慣れていたので、この業界での仕事は苦にならないのですが、やはり男性が多い中ではコミュニケーション力が大いに必要です。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

建設業における女性の活用については、業種にもよりますが、造園業など、女性の特性を活かせる業種はあると思います。確かに現場は大変だと思いますが、最近は現場を希望する肉食系女子（笑）もいるはずですから、悲観はしていません。

➤ 質問④ 建設業の現状を変えていくには

女性は得意なコミュニケーション力で、現場監督に適していると思います。しかし、部下になる男性側の意識が問題だと思います。建設業における女性対応についての学習が必要かもしれません。

また、建設業での助成金は手厚いです。それでかえって業界のゆるい体質が生まれやすいのでは、と感じることもあります。また、非効率さなど、改善する部分は大きいにあると思います。

◆ヒアリングを終えて

30年近く勤務する先輩女性に続く、正社員の女性。社員のうち、女性従業員は4名とのこと。

備品や調度品が行き届いた印象の広い事務所の応接コーナーでのインタビュー。お子さまを保育園へ送迎しながらの勤務ということで多忙な子育て中のママ。どの質問にも明確に答えてくださり、ご本人のおおらかさが伝わってまいりました。

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月10日

“女性が働くことに社会の理解や意識の変化が必要”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

ゆきさん>短大を卒業して、すぐ入社しました。現場事務所での事務担当から、本社事務所勤務を経て、社長の「これからは女性も営業企画部で活躍を！」という掛け声のもと、現在は営業企画部に所属しています。課長とともに得意先回りの日々です。学校などへグラウンドの人工芝を営業販売しています。

落札できた時や、現場での達成感が大好きです。

のりこさん>ホテル料飲部（レストラン）勤務を結婚退職。その後、派遣社員などを経て、母親がグループ企業に勤務していた関係でこちらに入社しました。伝統を重んじる会社で、年末の餅つきなど行事の準備は大変ですが、日本文化や慣習の美しさを学ぶことができました。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

ゆきさん>建設業における技術の進歩などについての知識についていくようにここがけています。また、チャレンジ精神を大切にしたいと考えています。

のりこさん>資材リース業での派遣勤務で、建設業の雰囲気は知っていましたので、あまり抵抗感はありませんでした。

営業企画部を1年経験しましたが、中学生の娘二人を育てながら勤務していますので、残業の少ない社内勤務の総務担当を希望しました。社内業務担当者が私1人だけなので、健康診断等手配や各種届出作成、年一回の安全大会などの準備など多様な業務をこなしています。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

ゆきさん>高等学校建築課程を卒業した女性も入職してきたことがありました。現場管理を目指して約2年間がんばっていましたが、結婚や産休取得について自信が持てないという理由で辞めてしまいました。そのあたりのイメージが明確になれば女性の入職者も定着すると思います。

➤ 質問④ 建設業の現状を変えていくには

ゆきさん>女性が建設業で活躍するためには結婚、産休などのネックの解消が課題だと思います。しかし一方で、女子大を出た方が現場をやってみたく入社してきました。これからは女性の活躍が期待できる業界ではないでしょうか。

のりこさん>やはり建設業での女性の活躍は、限定的だと感じています。現場勤務など大変だと思います。それより、女性が働くことに対する男性や社会の理解

や意識の変化が必要ではないでしょうか・・・。

◆ヒアリングを終えて

重厚感のある社屋。ゆきさんとのりこさん、どちらもたおやかで笑顔を絶やさずに答えてくださいました。

お二人とも自分のできることに精一杯向き合いながら、これからも建設業で輝いてゆかれると方だと思いました。

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月16日

“昔のような徒弟制度が通用しない時代”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

義父母の社長夫妻と、専務である夫とともに家族経営で、造園業を切盛りしています。総務・経理をはじめ各種届出書類作成、写真整理などの社内業務を担当しています。3人の子育てをしながら社内事務を一手に引き受けています。

夫は一級造園施工資格取得者ですが、私も二級土木施工管理技士資格を取得しています。後継者である夫と将来構想などについて頻繁に話し合います。夜自宅で食事中でも（笑）。夫と様々な経営課題に取り組むことにやりがいを感じています。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

夏場の草刈りは特に過酷な作業。氷や水等の準備等季節に応じて対応しています。特に社員の健康や安全管理を怠らないよう心がけています。基本的に造園業は現場に出てこそ仕事になる稼業。夫をはじめ社員は雨でも合羽着用でほとんど現場に出ています。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

たしかにきつい仕事ですが、最近の若い人たちが忍耐力や怒られ慣れていないことが気がかり。ハローワークに募集をかけて採用してもなかなか定着しません。

現場希望の女子の応募もありましたが、手はじめに旗持ちや掃除をさせただけで、ここまで厳しいとは思わなかったと辞めてしまうのです。また、親が反対するからと、辞めてしまう。技術を身につけると一人親方にもなれるのですが、将来を想像する力がなく、仕事に対する緊張感も弱いと感じています。

➤ 質問④ 建設業を変えていくには

なにくそという反骨精神だけではだめ。昔のような徒弟制度が通用しない時代です。業界のイメージチェンジも大切だと思います。

◆ヒアリングを終えて

螺旋階段が印象的な2階の事務室での取材。現場担当の社員の方たちは月曜～土曜日、祝日勤務で、勤務時間は7:30～17:00とのこと。

11才、8才、2才のお子さんの子育て中につき月曜～金曜の9:00～15:30の勤務で、自宅から子どもたちを保育園に送り迎えしながらの多忙な日々。

もともと働くことは好きだったということで、家でじっとしてられる性分ではないと自己分析。質問にもてきぱきと回答してくださいました。

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時＝9月16日（電話取材）

“建設業の面白さをいかに魅せるかが勝負”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

アパレル関係での販売企画を希望していましたが、約20年前には4年生大卒の女性の就職先は極端に少ない時代でした。就職活動で苦戦していた折、当時社長だった父親から声をかけられました。

営業として入社しましたが、新人には顧客への営業はまかせられないという父からの厳しい指示で、最初は新規の飛び込み営業に回りました。

入社の際、3年以内に利益が出せなかったら辞めると宣言して、奮起しました。

やはり、男性社会のなかで働くことは並大抵のことではありませんでした。女性というだけで、入社以来、長年まともに口もきいてくれなかった職人さんが、最近になって、やっと初めて口をきいてくれたほどです。ようやく認めてもらえたように思えて、涙が出るほど嬉しかったです。

また、工事が完了してお客さまに喜んでいただけた時にやりがいを感じます。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

先代からわが社では、きれいな言葉づかい、お見送りなどのおもてなしの精神を大切にしている社風があり、私も社員にそのように求めています。

男性社会の中で一番苦心していることは、生理前後の辛さ（感情のみだれ、体調不調）を周囲の男性たちに、いかに適切に理解してもらうかのコミュニケーションに腐心しています。軽作業に回してもらおうよう協力をお願いしています。重量30Kまでは扱うことができるのか、具体的にできることとできないことを峻別して伝え、代わりにできることを提案するようにしています。

重労働ができない場合には、男性が敬遠しがちな現場をキレイに整理整頓することや、梱包材量の発泡スチロールや段ボールの仕分けなどの小さい仕事を引き受け、しかもできるだけ笑顔で取り組むようにしています。

特に心がけていることは、コミュニケーションは必ず自分から発信すること。相手の反応を期待しないことです。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

建設業を変えていくには、イメージアップの工夫が必要です。たとえば「建設業」という言葉も多業種をひとくくりにしてよくわからない。また、長い間に様々なマイナスイメージが染みついてしまっていると思います。

「環境政策課」と言い換えられた部局がありますが、例えば「建設業」という表現をカタカナ表記に変えてみてはどうでしょうか。建設業の多業種をあいまいにせず建設業

の面白さをいかに魅せるかが勝負だと考えています。アイデアならいっぱい持っていますよ（笑）。

それぞれの業種をマップにした図解本やまんが本。それに建設人として定着・成長するためのスキルアップのプロセスがわかる本もほしいですね。

➤ **質問④ 建設業の現状を変えていくには**

女性就業におけるボトルネックの解消を意識化し、その具体的な対策や政策立案が必要です。男女それぞれに向けたセクハラ対応集も。さらに座学だけでなくロールプレイなどの実践学習も大切です。

建設業界としてのトータルな教育支援が必要だと考えています。

◆**ヒアリングを終えて**

ほとぼしる言葉に圧倒されつつ電話取材。同じ女性として大いに共感しました。現在、代表取締役であるお兄様とともに経営者として多様な活躍を展開されています。

建設業では地位とマナー、言葉づかい、服装などの品位のアップが必要だとも。厳格なお両親のもと、今では考えられないほどおとなしい箱入り娘だった（笑）と、明るくおっしゃいましたが、これこそが男性社会の中で働くなかで身につけられたしなやかな思考なのだと確信しました。

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月4日

“女性の同僚は大切。助け合うことで、定着率アップにつながる”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

先輩>この会社はおもに建設現場の解体やリサイクルをおこなっています。役所への届出書類の作成、提出などを担当しています。現場事務所での事務をおこなう時もあります。

現場の方々のサポートをして、その結果、利益が出ることにやりがいを感じています。もしかしたら、天職かもしれないと思う瞬間もあるくらいですよ（笑）。

また、後輩を指導していくこともやりがいです。

後輩>以前は福祉業界で働いていたので、正直、最初の頃は建設業のいかつい体格の人たちに驚きました。けれど、酷暑のなかでも懸命に汗まみれで働く姿を間近に見て、心から尊敬するようになりました。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

先輩>各種道具類の名称をはじめ、建設業に関する基礎知識は必要だと痛感しています。担当業務は、現場と事務所の間接的な立場にあるので、コミュニケーション力を発揮しながら対応することに努めています。

後輩>現在、建設業経理士検定2級受験に向けて準備中です。帰宅してから毎晩必死で受験勉強しています（笑）。経理業務をはじめ、いろいろな知識を身につけて、建設業でしっかり働いていきたいと考えています。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

先輩>個人的には女性は男性と対等の扱いがよいと考えています。ていねいに見れば建設業の業種の中には、まだまだ女性が活躍できる業務があると思います。

➤ 質問④ 建設業の現状を変えていくには

先輩>男性が多い建設業で、女性の同僚の存在は心丈夫だし、助け合うことで、定着率アップにつながると感じています。そういう意味で女性の雇用拡大は大切だと考えています。同性の後輩をしっかり指導して、ともに安心して長く働いていきたいです。

◆ヒアリングを終えて

先輩は入社3年目。大手衣料品メーカーで、陸上部（駅伝）に所属していたということです。残念ながら女子駅伝に選出されることはなかったと、冗談まじりでおっしゃいました。その後、服飾関係や金融関係などでの勤務を経て、今の会社に入社して、

営業事務等を担当しているとのこと。

入社して1年余りの後輩は、自宅からバイクで通勤。短大で福祉を学んだ後、介護施設での勤務を経て、建設業に入られました。

明るいう一階事務室の応接スペースでのインタビュー。お二人とも作業服を着用した姿が清々しく、よくお似合いです。社員のうち女性は3名在籍とのこと。先輩のスポーツで鍛えた率先力のもと、チーム力で輝いてゆかれると期待しています！

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月16日

“建設業の多業種に対応できるよう常に技術力を磨く”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

3年間の銀行勤務の後、嫁いできて37年目です。おもに経理や見積書作成、入札関連事務、及び各種届出書作成業務を担当しています。

同じ建設業でも土木は見える形として残りますが、水道工事は成果が見えにくいのがさびしいです(笑)。ただ、工事が出来上がり、お客さまに喜んでいただけた時は嬉しいですね。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点。

息子二人が揃って建設業を継いでくれています。他社で修行してきた長男が電気業、弟のほうは土木を担当しています。従業員と経営者家族で営業しています。親族で固めたなかで働く従業員は、居心地が悪いのではと少し心配しています(笑)。

親族で土木、電気工事、水道、さらに電気店など多業種を経営しています。他の建設業の業種にも対応できるように常に技術力を磨くようにしています。

また、携帯電話のアンテナ設置工事などの受注営業をするなど、経営努力をしています。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

ハローワークなどで絶えず求人をかけてきましたが、なかなか続かないのが現状です。トライアルで応募者を試用するのですが、すぐに辞めてしまいます

土を触らなくなった現代の若者の育ち方にも問題があると思うこともあります。たしかに建設業は3Kの部分ではありますが、表面的に取り繕っても根本的解決にはならないと感じています。

雇用側としては、採用するなら体育会系のクラブをやってきた人がいいですね。忍耐力があると感じています。

➤ 質問④ 建設業を変えていくには

建設業での女性の活躍については、できる人なら活躍できると思います。現場での体力勝負では不利ですが、現場管理などで女子は活躍できるでしょう。実力があれば男性も受け入れてくれますよ。

◆ヒアリングを終えて

創業は昭和32年で、おじいさまがポンプ業を始め、高度成長時代にはテレビなどの家電を販売してこられたとのこと。

現在、息子さんたちが経営していて、夫である会長は現場を離れ、地域の振興会などの役員などを担っておられます。

会長をはじめ夫人、息子さんたちが取得した各種資格免許証の数々が壁一面に掛けられていたのが印象的でした。建設業を守る家族の歴史を垣間見たようでした。

建設未来京都フォーラム記念事業『建設業で輝く人びと』

ヒアリング日時=9月10日

“輝くしなやかに生き抜く姿！”

➤ 質問① 建設業で働く喜び

2人の子どもを育てるため必死で働いてきました。実家で母親と一緒に暮らすため、大阪から引っ越してきました。ハローワークで近所の職場をと探し、この職場を見つけて、今年で3年目です。

大手衣料品メーカーでの勤務などいくつかの職場でずっと働いてきましたが、建設業は今回がはじめてです。

写真整理、入札の届出書類の作成、提出をはじめ総務・経理事務も一手に引き受けています。社長と現場担当社員の方々は、日中ほとんど現場に出ているので、顔を合わせるのは朝夕のみです。

小さな仕事場ですが、月～金曜、9:00～17:30勤務で残業なしの正社員。実をとったと思っています(笑)。

パソコンスキルは独学でマスターしました。役所へ提出用の写真整理がキレイにできたときには、達成感があり嬉しいですね。性分に合っているとも思います。

➤ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

一人職場なので超多忙ですが、時間配分なども含め、仕事がマイペースでできるので大丈夫です。

この会社は、平成12年に社長が起業した会社です。個人宅の庭師の仕事が減少してきて、社長自身が学校、マンションなどの剪定管理の受注営業に駆け回ったこともあるということです。社長とは年が近いこともあり、社長の話の聞き役になることもありますよ。聞くだけ、ですけどね(笑)。

➤ 質問③ 建設業の人手不足について

造園業は剪定作業など細やかな仕事もあり、現場を希望する女性も応募してきますが、社長が採用には消極的です。やはり現場では、危険な作業や重労働もあるので、女性の雇用は困難だと考えているようです。

➤ 質問④ 建設業の現状を変えていくには

生きていくために働くことは大切です。建設業でも女性が活躍できる業種や業務は、まだまだたくさんあると思いますよ。

◆ヒアリングを終えて

すてきな社名は、社長が好きな楽曲名から命名されたそう。子どもさんを育て上げ

られた今では、働くことが好きだともおっしゃいます。しなやかに生き抜いてこられた姿が輝いて見えました。